

## クウェート留学体験記

大阪大学外国語学部外国語学科トルコ語

吉川将司

日本でアラビア語を勉強していた頃に、インターネットであるアラブの新聞のコラムを読んだ。そのコラムの内容を見つけ出すことができなかつたのであるが、「世界的な英語の地位の高さにもなって、湾岸諸国でもかなり英語の使用頻度が高まっている。これはとても良いことであり、アラビア語に関しては、クルアーンを読むことさえ出来れば良い」、のような主張であった。アラビア語がイスラーム教の聖なる言語であるという以前からの一般的な知識にとって、この新聞コラムの内容はとても受け入れがたい、理解し難いものであった。

しかし実際にクウェートに来て見たものは、全店員が外国人労働者のショッピングモール（東南、南アジア、エジプトなど、エジプト人はアラビア語話者であるが、共通語は英語だった）、アラビア語文法の授業で、なぜか英語を使って先生に質問するクウェーティー女生徒、イングリッシュスクールでアメリカンなアクセントをマスターした次世代の子どもたち、なぜかアラビア語、英語を混ぜて会話するクウェート人たち（インターネットでの掲示板などでも混ぜて書いているのが見られる。一文英語で書いて、二文目アラビア語、そして英語に戻ったり）、などで完全な二言語社会を体験した。

対して、留学先のクウェート大学語学センター、大学生寮では、また別のアラビア語世界を体験した。世界各国からの留学生の間では、もちろん英語もそうではあったが、アラビア語でコミュニケーションがとられることもよくあって、他国からの友達と、切磋琢磨的に勉強、話し合ったりした。ここでのアラビア語は、みんなが共通に勉強する正則アラビア語、フスハーで、方言に染まらず、フスハーに専念できるという点で、とてもいい環境だと言えらると思う。また、クウェート人の友達も自分のアラビア語勉強にとっても協力的で、またその方言も正則アラビア語に近く、フスハーの練習に付き合ってくれたり、また方言も教えてもらった。方言のフスハーへの近さといえば、語学センターの先生のそのフスハーの上手さには、毎回惚れ惚れするものがあった。

このようにこの留学を通じて、アラビア語の上達とともに、いままでの自分の世界とは異なつた、新しい世界を体験することができた。このような貴重な機会を恵んできた抱いたクウェート政府奨学金制度には感謝にたえません。